Life is Rights

子ども・女性を対象とした
虐待連鎖防止事業　報告書

目　次

はじめに

2　性暴力を経験した少女たち
—特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

12　性を買った男性たち
—やっぱそこには「心」がないとさ、いいセックスってできないと思うんだよ。
—風俗にはまっている人は、憩や安らぎを求めているのかもしれない。
—付き合いたてのすっごい幸せな感じ、あの感覚をお客さんは味わいたいんだよ。
—風俗以外の道でも需要と供給がマッチするような社会があれば、それはそれで嬉しい。

22　少女たちのその後を支える活動
—〝ココロにきく〟メーク講座
—〝ココロも満たされる〟料理講座
—〝ココロも元気になる〟護身術
—暴力経験を振り返るワークショップ
—施設職員に対するスーパービジョン
—家に帰れない子どもたちを対象とした宿泊所提供と福祉サービスへのつなぎ

◎表紙写真：ken（特定非営利活動法人 BOND プロジェクト）

はじめに

「性」と引き換えに「生」を得る人生を何とかしたい
性産業の「商品」として「使い物」にならなくなって
はじめて福祉につながる現状を変えたい
過去の経験による「援助交際」「望まない妊娠出産」「育児放棄」
という暴力連鎖を止めたい

こうした想いから、「しあわせなみだ」では、平成25年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業として、「子ども・女性を対象とした虐待連鎖防止事業」を実施してきました。

暴力が起こっていることは分かっている。
暴力の連鎖が起こっていることも分かっている。
見て見ぬふりはしたくない。
だけど、何をすればいいか分からない。

そんな状況から、一歩、踏み出すために。
私たちはこれからも活動を続けていきます。

この報告書を手に取ってくださった、あなたとともに。

特定非営利活動法人しあわせなみだ　理事長　中野宏美

性暴力を経験した少女たち

性暴力を受けて、大丈夫ではないはずなのに「大丈夫…」と、自分自身に言い聞かせるように、声を喪う少女たち。

「大丈夫じゃない」と、声を出してしまったら、自分が壊れてしまってこれから生きていけないとわかっているからなのか…。

こんなとき、会って話を聞かせてもらう私の胸は、痛みと怒りと悲しみでぐちゃぐちゃになる。同時に、『なぜ？　何を、誰を守っているの？　こんなに傷ついているのに…』と、問いかけたくなってしまう。

性暴力には、そこには必ず、加害者と被害者が存在する。加害者は、自分の身勝手な自己中心的で、暴力的な行為が、被害を受けた者にとっては『魂の殺人』にあたるなんて微塵も思ってはいないだろう。思っていれば、決してそんな行為は出来ないはずだから。

「嫌だったなら逃げればよかったのに。」

そう思う人もいるかもしれない。『ちょっと待ってよ』と、私は思う。抵抗したら、逃げたら、もっとひどい目に遭わされるかもしれない、殺されるかもしれない、脅かされるかもしれない。

「助けて」と、声を上げても、誰からも助けてもらえないかも知れない。そこで待っているのは絶望だろう。

『心を、魂を殺されるしか、命を守れる方法も、生きる手段もなかったよね』と、声を聞かせてもらった私は思う。

私たち大人が見たくないことに目を背けて、聞きたくない声に耳を塞いでるときに、性暴力を受けた少女たちは殺されている。

少女たちの瞳に映る私たちの生きるこの社会は、何色に映るのだろうか。白？　黒？　灰色だろうか。

少女たちの現実には、現代の日本社会が見過ごしてきた問題が、大きく影を落としていることに、気づいてほしい。

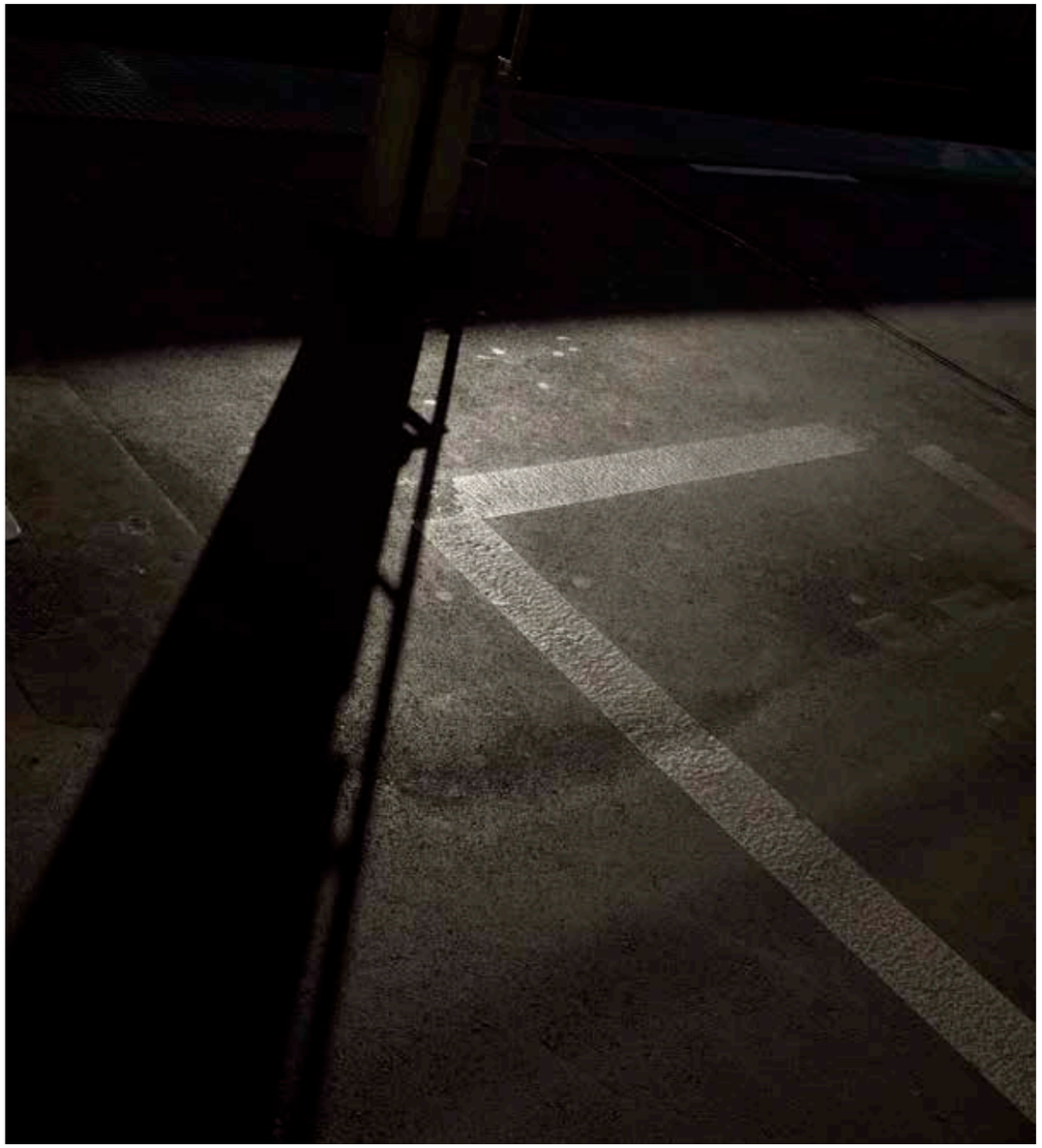
現実を知ってほしい。

心の奥底で、何かを感じてほしいと願う。

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト　代表　橘ジュン

◎取材・文・写真　特定非営利活動法人 BOND プロジェクト（2014 年度　東京都地域自殺対策緊急強化補助事業から）

※本記事に掲載している写真は、本文中の女性とは関係ありません。



学校内でいろいろ重なり、高校を自主退学した2年の冬。同居している祖母と激しい口喧嘩になった。祖母は、めぐみに対して何か気に入らないことがあると、高校を辞めたことをしつこく言ってくる。

この日もそうだった。

「辞めるなと言うのに学校を辞めちゃって。そんなやつうちの子じゃない！言うこと聞けないなら、家から出ていけ！」

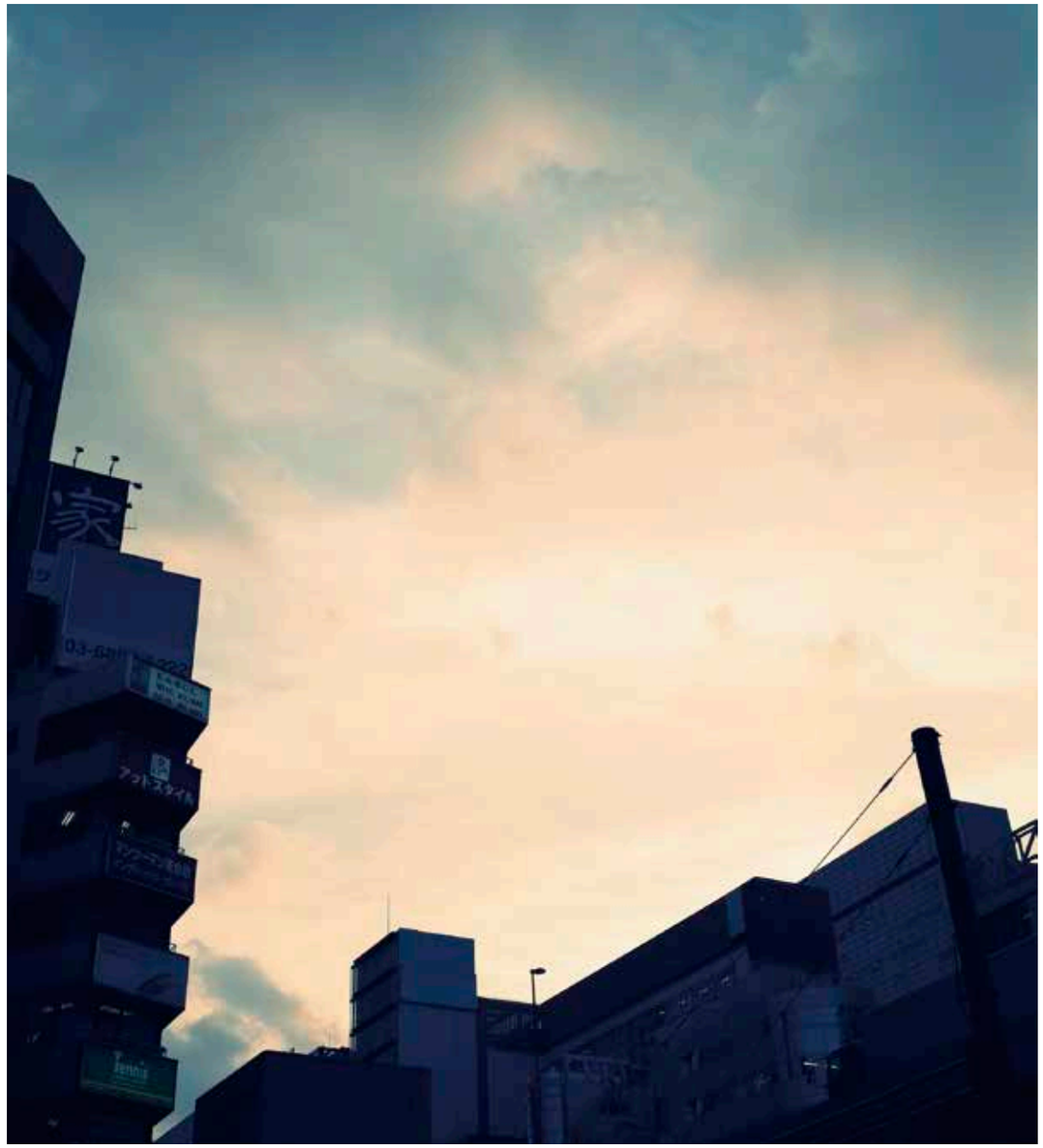
いつもは黙って聞いているめぐみだったが、この時は我慢ができなかった。

「そんなに言うなら出ていってやるよ！」

部屋に戻り、生活用品や大切な物、本、写真、下着に衣類、携帯充電器、現金2万円をキャリーバッグに詰め込んだ。

行くあてはなかった。地元の友だちの顔は浮かばなかった。行くあてはないけど、なんとなく家を出ていくなら知り合いが何人かいる東京がいいと思った。

深夜のバスの座席を予約した。バスの時刻は0時過ぎ。



「初めて東京行ったときに、ホームレスの人たちの多さにビックリしたの。住む場所なんかなくても、ちょっとくらいなら私もホームレスすればいいかって気持ちだった。とにかく家を出たかったから。」

§

新宿駅に着いたのは朝の6時前。目的地などない。あてもなく、歩いていたら、男性に声を掛けられた。

「もしかして、家出？　仕事とか住む場所とか探してる？　紹介するし、提供してあげるから、ついておいでよ。」

めぐみは黙って頷いていた。心の中では『この人、親切な人だな。仕事は夜かな？　イヤだけどそれしかないのかな。行く場所ないし、仕事探したかったし、仕方ないのかな』と、思いながら、めぐみはその男性についていった。

連れていかれたのは駅から少し歩いた雑居ビルの一室。部屋の中は机とベッドが置いてあった。生活感はなく、仕事場のようだった。

「さて、こっちきて。服脱いで。練習するから。」

男性が命令口調でめぐみに言い放った。自分が何を求められているのか、

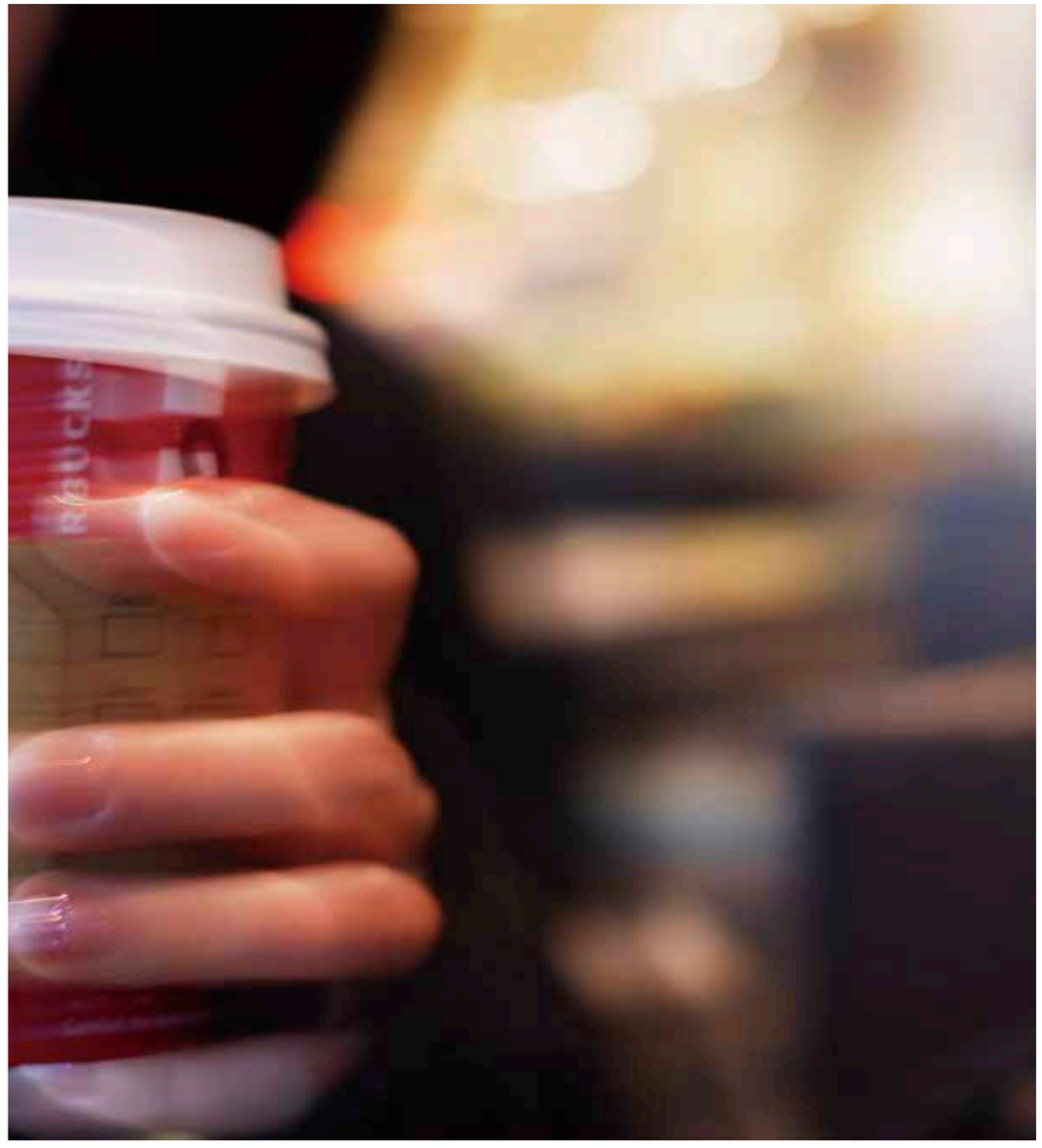
わからなかった。
「えっ？」
「早くしてよ。脱いで。」
「えっ？」
そんな言葉しかめぐみの口から出てこなかった。威圧的な男性の口調は、恐怖心でいっぱいのめぐみを支配した。男性の乱暴で強引な性行為が、12時間以上繰り返された。
「怖くて不安で、不安過ぎて、何が何だかわからなくて、されるがままされていて。逃げたいのに、逃げられなくて。怖くて、体が固まっちゃって。逃げたくても、ここがどこかもわからないし、行くあてもなくて。暗証番号を入力する鍵で閉められているし、鍵を開けたくても開けられないし、本当に、どうすることもできなかった。でも、男が眠った隙にボンドにメールしたの。ただ、自分の今の状況を知ってほしかったから。」

§

やばいです。
家に居るのが耐えられなくて、家出して、意味もなく東京にきました。
だめですね、私が東京なんかに来ちゃ。

風俗のなんかの人に捕まっちゃいました。
私はどうなるの？
まだ17だよ？
もう逃げたいのに逃げれません。
ケータイも頻繁にいじれなくって、今急いでメール打っています。
もう嫌。
まだ家にいたほうがよかった。
自分馬鹿です。
助けてなんて図々しいことは言いません。
ジュンさんブログ見てると忙しそうだから。
ただどうしても伝えたかった。
ごめんなさい。
こんなん言われても迷惑ですよね。
謝るくらいならメールするなってなったらごめんなさい。

ボンドの相談メールに届いためぐみからの緊迫感が伝わるメール。そのことに気がついた私は、めぐみに返信をする。
「出てこられる？」
待ち合わせ場所をめぐみに指定をして、男性にはめぐみがまた部屋に戻っ



てくると思わせるように、うまく出てくるようにと、私は伝えた。

「ちょっと会いたい人がいるから、出てもいいですか？　すぐ戻ります。荷物は置いて行きます。」

　めぐみの言葉を受け、男性は「すぐに戻ってきてね」と、鍵を開けた。

「私が何されても抵抗しなかったから、男も逃げ出すとは思わなかったみたい。それに、住む場所や仕事を探している困っている子と思っていたようで、部屋から出してくれたから、走った。見える場所をジュンさんに電話で話しながら、やっと待ち合わせ場所に着いて。本当にホッとした。」

　話を聞いた私は「警察へ被害届を出そう」と伝えた。ただ、めぐみ自身が『自分は性被害を受けた』ということに気づいていない様子だった。

「知らない男性についていってしまった私が悪かったから、あんな目にあっても仕方ないし、親にもバレたくないから、大丈夫です。大丈夫、大丈夫です。」

　そう小さな声で呟いた。

　まるで、自分自身に言い聞かせ、責め続けているようにも感じた。

ジュンさん本当にどうもありがとう。
ジュンさんに会わなかったら
人生棒にふってたかもしれません。
私なんかのために
一生懸命になってくれて
ありがとうございます。
なんて表したらいかわかんないんですけど、こんな大人もいるんだってなりました。
またよかったら会ってください（^-^）

§

　今となれば、あのときつらかったということに気づけるし、思い出すと悲しくなるし、苦しくなると話してくれためぐみ。彼女だけじゃない。性被害に遭っても、声をあげらずに、心と体に傷を負いながらも自分が悪かったと、泣き寝入りしてしまう少女たちがたくさんいる。

　このままで良いはずがない。良いわけないのだ。『共に闘おう』と、声にならない少女たちの声を聞くたびに、私は胸に誓う。

Another Voices

私に届くさまざまな声。
街の中に、パソコンや携帯の中に、その声は聞こえる。

あなたの声が私にこだましている。
もうひとつの Voices…。

あなたの声が私に届くたびに、響いているんだ。

どうか、消えないで…。

橘ジュン

電車の中で
i-pod を聴いていたら
なぜだかふいに
生きるのが嫌になった
音楽なんかじゃ癒せやしない
心のどこかが錆びついてる

このまま一人
終点まで着いちゃったら
私どこへも
行く場所が見つからない
家族も友達も空気みたい
伸ばしたその手がまた宙を切る

おじさんから声でも
掛けられたら
少しは寂しさ消えるかな
誰でもいいからそばにいて
代わりに欲しいもの
全部あげるよ

本当の自分に会えるかな
正しい命の使い道
教えてくれるならお礼はするよ

ダレカニ アイサレタイ

A（16）

ジュンさん、
なっちゃん会えたよ、
観覧車乗ったぁ

会えて嬉しかった、ありがとう。

なっちゃんに、
ワンピースとパンツと
なんか、色々もらったよ。

ありがと ^^

また会いたいから頑張るね。

R（17）

大丈夫じゃないです。

でも警察行ったら
親に連絡されますか？

てか警察がどこかもわからない

m（17）

ジュンさん、１日に何回もごめんなさい。

私も、空みたいに体もココロもきれいになりたい。
いや、きれいじゃなくても普通になりたい。

y（18）

メールあったよ…

もうあいつとの関係は嫌…
そう思ってるのに

優しい時の優しさが欲しい

誰かの体温感じてたい…

矛盾してるよね。

だけど返事はしてないんだ…
電話も登録してない番号は
着拒しよっかな？

自分で変える勇気もたなきゃ
なにも変えられないんだよね!?

ジュンさん
私呆れちゃうよね。

ごめんなさい

S（18）

傷だらけだよ ジュンさん

t（16）

色々あり過ぎて何から
話していいか分からない。

溜まりに溜まって何か
涙でてきちゃって
全部終わりにしたくなった。

あたしなんかいない方がいい
皆の迷惑だから

J（17）

性を買った男性たち

「あんな女性だった」
「こんな内容だった」
「それだけの性的快感を得られた」
「性買（買春）」は「人」ではなく
「商品」「サービス」として語られます。
そこに性買者は存在しません。
なぜ、性を買うのか。
性買、そして性の斡旋を、「自分事」として
語ってもらいました。

※写真は本文中の人物および店舗とは関係ありません。

インタビュー①

やっぱそこには「心」がないとさ、いいセックスってできないと思うんだよ。

33歳　男性
2010.6.9 取材

疲れて、たまって、行く。

一番最近風俗にいったのは…3ヶ月前かな。めったに行かない。自分の状況としていくつか条件があるなあと思うのは、一つは疲れている時。あとは（性欲が）たまっている時。やっぱその二つが揃ったりとかすると、なんかこう行きたくなるよね。最近行った時は、もう超疲れてた。超疲れてたし、睡眠不足だったし、んで、（性欲が）たまってたしね。だから、行ったね。

多分女性にはこれ、分かんないことかもしれないけどね。男ってね、「疲れマラ」ってのがあんだよ。マラってちんちんってことなんだけど。疲れて死ぬ間際って、子孫残そうってする本能があるから、男ってあの…すごく性欲だけがガーッてあがっていくことがあんだよね。死ぬ前にちんちん起ってたりとか、ホントにあってさ。

行く時はいっぱいいっぱい。

（普段行く場所は）ＩかＳかな、俺は。お気に入りとかはない。指名したりとか調べて行ったりとかそういうことはまったくしない。ＳかＩに行くのは店があるから。ホントいっぱいいっぱいなんだよね。疲れてもういっぱいいっぱいだし、たまっていっぱいいっぱいだし、いっぱいいっぱいでどうしようもない時には、まあこういうところにお世話になることはありますよね。

一番最近行った時は、以前に連中と、みんなで行こうぜ、って行った（店）。（風俗店は）怖いところあるよね。人間の欲望のうずまくところだからさ。下手すりゃ病気もあるだろうし、怖いお兄さんもいるだろうし、色んな危険要素ってある中で、やっぱ一度行ったところっていうのは、安心できるところあるからね。

付き合いの中で「行こっか」。

俺は（風俗には）そこまで行ってない。何だろな、人並みっていったら人並み…だと自分で思ってはいる。

「人並み」ってどうなのかっていうと、やっぱ付き合い。男の付き合いの中では「行こっか」って行ったりとか、旅の恥はかき捨てじゃないけれど、地方に行くとみんなで行っちゃったりとかする時もあるし。

自分で行こうと思うときはよっぽどですよ。みんなで行く時は、まあノリだよね。今の職場では、そうはない。飲んでる中で、「お前もこのごろ女抱いてないの？」とかそういう話になったりすると、「じゃ、これから行っとくか」みたいな勢いで行っちゃったりとか、まあそういうことはあるけれど。

地方は地方で、ご当地の女性を・・・味わってみるというか。まぁそれでお金を払ってね、あの、抱くってことはいかがなものかと思うけれども。でも、その後、あとくされがあったりすると、まためんどくせぇかなとも思うし、まぁ病気さえ気をつければ、そっちのがいいのかな、と。

初めての風俗は修学旅行で。

ぶっちゃけ初めて行ったのは、高校の修学旅行なんだよね。自由時間があって、「とりあえず行くか」って、みんなで。中には学ラン着て行った奴もいるからね。京都でね。向こうもびっくりしてたよ。学ランで来ちゃったよって。でも相手にするよね。そりゃだって、（お金を）握り締めてるからね。

なんで行ったかって言うと、性の探究心だよね。俺はその時童貞ではなかったんだけど、でも（性に関して）あんまりいい思い出がなかったから。まぁ、でもやっぱロマンはあったよね。性に対してね。

その、冗談で、始めは「ストリップ劇場行こう」って。だけど劇場が見つからなくて。ストリップ劇場の案内雑誌なんてないわけじゃん。風俗雑誌ならあるわけじゃん。「行くんだったらば、どう、ね、先行こうよ」みたいな。

（風俗店では）まず触らしてくれたよね、色んなところ。それこそおっぱい触ることが素敵だなって、こうね。予想どうりだったけど思ったし。女性の性器を触ることも、ちゃんと、こう、教えてくれたっていうのもあったしね。ま、その後（セックスを）やらせてくれてね。ピンサロ（本来は口だけ）だけど最後までやらせてくれたよ。多分ね、お姉さん方の粋な計らいだったと思う。中にはもちろん「僕駄目です」って言いながら、ピンサロ（の内容）だけで普通にやった奴もいたし、俺らみたいに最後までやらせてもらった奴もいるし。終わった後、外で待ち合わせすんだけど。男同士で会話は大してなくて「どうだった」みたいのが。お互い突っつきあうような、ある意味成績表、通信簿をもらった時のような。

ま、でも、やっぱ「いいな」と思ったよ、「女性ってすごくあったけえな」って。俺男性だから。あと大学時代に二丁目にはまった時もあるけど、「やっぱ女がいいかな」って思ったよ。

性の営みは特別なものでない。

彼女とうまくいってるっていうのを、あくまでセックスに限定してだよ。性関係がうまくいっていれば、まあ風俗には行かないだろうね。セックスは究極のコミュニケーションだと思うし。コミュニケーションはうまくいっていても性関係がうまくいっていなければ、（風俗にいくことも）まああるだろうな、それはな。

セックスとコミュニケーションは両方大事。両方は難しい。でもそこまで持ってくことが、生きてくことで、男と女の。男として生まれて、女として生まれて、で、お互いを好きだなって思ったら、突き詰めてく、求めてくのが道のような気がする。

ただ男の欲望っていうか、性欲っていうのは、すごいバイオリズムがあるからね。それに女の子がついてこられるかっていうと、それはすごい難しいこともかもしれない。だってやりたい時はもうガーッてやりたいし、やりたくない時はもうまったくやりたくなかったりするし。年がら年中やりたいときもあるし。それはね、歳、状況、環境によって全部違うからね。

思うに、やっぱ想像力だよね。女性の想像力がどれだけあるか。「ロマンチスト」ってのはちょっと空気読めないように感じるかもしれないけど、でも「ロマンチスト」って、意外と相手の空気を自分の中に読み取ろうとするところがあるから。それはすごい力だと思う。

性の営みってさ、別に、特別なもんじゃないと思うんだよ。ある意味日常生活の中での、人間が人間として生きていく中で、自然の営みだと思うんだよね。だからそういうふうに、お金を払わずにできるのであれば、それはそれに越したことはないと思うし、それで「愛」ってやつを深められるならば、ね…（風俗は）必要ないと思うけどね。で、男はそれがうまくいかないから、みんなお金を払ってやるんですよ。

ま、でも、いいセックスができた時って、いい精神状態ではある。昔の人はよく言ったもんだよ。「心」が「生」きると書いて「性」だからよ、結局は。

風俗はなくならない。

風俗を職業としてるとやっぱり、疲れるんじゃないかな。趣味を仕事にすると、仕事か趣味かわかんなくなってクタクタになっちゃうように。まあ（風俗は）人類最古の職業だって言うからなぁ。やっぱね、「床上手」っていうのも、良妻賢母の一つの要素だからね。「料理上手、床上手」って、よく言う…まあ男の意見だけどな。だからそういった面ではありだと思うけど。

ただ俺が思うのは、自分の本当に愛した女性が、風俗やってたらば、風俗止めて欲しいなって思う。なぜかっていうと、自分本位だけど、「自分以外の精子を体内に入れて欲しくないな」って。「だったらコンドームすればいいんじゃないか」って思うけど、そこで快感を味わったりすると、自分から離れてっちゃうんじゃないかなって思うことは思うだろうな。

で、風俗の子、風俗で働いている子を軽蔑しない。軽蔑はしないけど、それはちょっと条件があって、「プロ意識」を持っているかどうかだよね。それを仕事として持ってるか。やっぱり相手を満足、または、たとえ自分のバイオリズムを、それを差し置いてでも「相手を幸せにしてやろう」っていうことだと思うな。

風俗はなくらないと思うね。「性」っていうのがある限りは。性って何かっていったら、子孫を残すって作業だけど。やっぱり相手方が幸せを感じなければ、いいセックスとは言えないし、相手方が苦痛を感じたらば、それは暴力になると思うし。

性を買った男性たち

インタビュー②

風俗にはまっている人は、憩や安らぎを求めているのかもしれない。

41歳　男性
2010.6.10 取材

思った通りむなしかった。

ちょっと微妙なんだけど、風俗に行きはじめたのは彼女と別れて。実はそれまで風俗嫌いだったの。最初は絶対嫌だった。当時彼女と別れて、むしゃくしゃしてて。で、たまたま仲いい後輩から誘われて。まあなんか、自分の中で断る理由もあまりなくなって、で、一緒に行ったのが初めて。結婚する前で、Tに来てからだから、28歳。

やっぱ男なんで、こう「抜く」って行為はやっぱキモチイけど。まあ思った通りむなしかった（笑）。別に彼女でもなんでもないし。

ま、でも、それでみんなが盛り上がって、そういう話題でまた飲みに行ったりするから。「反省会」とか。それは面白かった。「顔どうだった?」とか。だいたい写真見てやるんだけど、ほとんど写真通りじゃない（笑）。そのギャップを味わって、いかに自分はダメだったかみたいなことを、お互いに笑い話して終わる。ま、そのくらい。反省会ってのは。

一度行ったら（風俗に）行くようになった。断る理由がなくなったっていうか。付き合いで行くっていうのは（あった）。イベントで盛り上がって行くとか、後輩と行くってのも、たまに。基本的に飲みが好きだから、私。お店行くより飲んでいたい。でもみんなが行くってなったら、断れないから行ってた。消極的に。

風俗での付き合いはビジネスにプラス。

（付き合いを）断るのが難しい時はある。今ピン（独立している）だからいくらでも断れるけど、会社員として断れない時期はあるよね。先輩から「何で来ないだ、お前」みたいなことは絶対あるから。よっぽど自分の中に決意がないと（断れない）。取引先から言われることはそんなにない。

ビジネスに影響するかは人によるなぁ…。風俗での付き合いの結果ビジネスが成立することはある。断ったから縁が切れるってことはないだろうけど、行くことによって仲が良くなることはある。「お酒飲みに行こう」って言われて、「僕飲めないんです」って言うのと「とことん行きましょう」っていう違い。それと同じ感覚。

出世へのマイナスの影響は、ない、ない、ない。一切ない。プラスの影響は大いにある。やっぱり人って、その、仕事そのものの評価は別として、一緒に働きたいかどうかって基準で呼んできたりとかするじゃん。その中で、夜の世界も一緒にやっていける、っていうとなると、やっぱり親近感があるよね。それくらいだけど、ま、ゼロではないよね。

お金のためにやってる人って、好きでやってないでしょ。

実際風俗行ってる（働いている）子と友だちではないので、友だち感覚で語れないけど、でもまあ大変なんだろうなっていうのは。ま、うーん、中にはホントに好きでやってる子もいるけど、多分大半はお金、困ってるじゃなくて、野心があってさ、お金貯めるためにとか、けっこう多いじゃん。バイトでね、どんどん進んでいくと、普通のバイトじゃ（給料が）低いからお水に行って、お水からそういう業界に入る人って多いから。だから「あ、なんか思いがあってやってんだな」ってのは思う。「何かお店持ちたいのかなー」とか、「すごい借金なんか抱えてるのかなー」とか。意外とそこらへんは冷静に思ってたかもしれない。

妻が現役でやってたら、悩むかもしれない。過去だったら別に。好きでやってんだったら、多分別れる。お金で苦労してるってことは、自分にも責任があるから。でも、まあさせたくはないよね、きっとね。うまい言い方としてだけど、やっぱ妻だったら、止めさせたいかなと思う。別れる手前ね。

好きだったら（止めさせるのは）難しいな。お金のためだったら「違う仕事あるでしょ」って言うことだけど。「俺も一緒に働くから」ってね。好きだったら止めさせれないもんね。でも、そういうシチュエーションにならないと、よくわからないな。多分実際には別れないと思う（笑）。全然別れる理由にならないもん。好きだったら。

お金のためにやってる人って、好きでやってないでしょ。仕事ってお金のためにやる部分もあるけど、実際はそうじゃないじゃん。仕事の楽しさって。もっと言うと、お金のために生きてるわけじゃないので、そこを一緒に考えたいなって思う。妻だったら、でしょ。でもな、そうだった（好きでやっていた）として、すごくその仕事に誇りを持ってるんだったら、多分俺だったら認めると思う。別に。

っていうか風俗に、妻と同じような世代の人、あんまりいないよね。いる? いや、ほとんどいない。年齢的に、もっと、10代とか。あるいはよく聞くのは、結婚して、セックスレスになって、（風俗に）来てるっていう。でもそれは（夫に）内緒で来てるもんね。わからない。

正論では、風俗はいらない。

すごく正論からいくと、（風俗は）いらない。現実的な社会においては、あったほうがいいと思う。

基本的に風俗ってのは、俺実はいらないと思ってるんだけど。それは、結婚したから、子どもが生まれたからそう思ってるけど、やっぱりセックスがキモチイっていうのは、やっぱり子どもを産む作業として、キモチイから子どももって意欲をね、やっぱり天から認められたからこそ、そういうことになってるんで。本来の目的はそうじゃない。正論からいくとそういうことであるので、そこでうまくやっていけばいいかなぁっていうことは思うけど。

現実的にいくと、男って、すごいヤラシイから、「彼女がいても、彼女がやらせてくれない」とか、「彼女がいない」とか、あるいは、「満足しきれなくて」とかいう性欲って（ある）。それを満たすために、もし風俗が完全になかったとしたら、素人にいくってことでしょ。結構危険だよね。そういう意味で、ある程度防波堤になってる産業なのかなって思う。

ただ、自分の作りたい社会の中に風俗はいらない。性欲以上にもっと満たされるものがあるから。愛っていう。理想の社会はね。

後を考えた時には、お金出して済ませといたほうがいい。

今後風俗に行く可能性は、ま、ゼロかっていうとわかんないけど、多分行かない。あんまり興味がない。

風俗で性欲を満たすことに興味がなくなった。もう年齢的かな、昔のような性欲は（ない）。今は子育てとかすごい興味があるしね。そういうことですごい満たされてるし。お互いにこう承認しあう力だとか、そういうところがすごい満たされるところがあるし。

（付き合いで行っていたが）途中から、何となく（風俗に行くことが）好きではあったよ。結婚もしてるし、素人口説いてっていうのも、やっぱリスクあるじゃん。ま、口説きたい気持ちって、男だからそりゃあるけど。やりたいかどうかっていうのは、やっぱりその後考えた時には、お金出しといて済ませといたほうがいい。

風俗に行ってる男って、結構優しいんだよ。

風俗と性暴力って、ま、ちょと自分の中では違うもんじゃないかなって。多分今でも少し感じているところはあって。まあ、ある側面だけ見ているかもしれないけど、風俗に行ってる男って、結構優しいんだよ。ちゃんとそこではけ口を作ってたりとか。ま、いいか悪いかは別としてね。一人の特定の人に求めすぎずに、自分の中で何とか解決しようとして、風俗っていうところを、まあ活用しようとしている。

風俗業っていうのは、もちろん最終的なゴールは「なくす」「ない世界」「なくても満たされる世界」がいいんだけど、現状の中にあっては、風俗ってのはあったほうがいいと思う。

風俗は男性の中ではまだ嗜好品のレベル。タバコとか、お酒とか、ね。女っていうのも、深く入っちゃうと不倫だとか浮気だとかややこしくなるけど、風俗って対価としてお金を払って…だから嗜好品の中なのかもしれない。「性暴力」って言われた時に、距離感がすごくある。

なんか支配したいとかそういうよりも、どっちかって言うと憩を求めてたりとか、安らぎを求めてたりとか。もしかしたら風俗にはまってる人は、そっちの人のが多いかもしれない。

性を買った男性たち

インタビュー③

付き合いたてのすっごい幸せな感じ、あの感覚をお客さんは味わいたいんだよ。

26歳　男性
2010.6.20 取材

指導するためのポケットを増やしたい。

一番最近（風俗に行ったのは）…いつだろうな…えー、今年行ったかな？去年の末かなー。うーん、覚えてない。

前の仕事が、まぁ風俗店で働いてたんで。仕事としてってのもありますし、プライベートとしてってのもあって…。今年の3月までやっていたので。いっぱい行ってますからね。

プライベートで言ったら、半年に1回とかですね。友だちと一緒に遊んでて、で、「行こうか」みたいな。誘うこともありますし、誘われることもありますし。（誘う時は）単純にお金にちょっと余裕があるとか、場の雰囲気的にすごい盛り上がっている時とか。だいたい3〜4人とかで。1人で行くこともありますね。なぜ風俗に行くのか？　…うーん、癒しを求めて。

でも、なんていうかな…あんまりこうプライベートで遊ぶっていう感覚じゃあなくなってきている部分も正直あったんで。もう冷静な目みたいな。自分がそういう仕事してて、吸収するためにっていうのは、当然。

やっぱり働いてたんで、伝える側なんですよ。指導する側なんで、その指導するためのポケットを増やしたいなっていう感覚。働いてた時は、月1は絶対行くようにしてましたね。

初めての風俗は、もう緊張しすぎて覚えてない。

一番最初は、高2の時ですね。仲良かった友だちと、中学校の時の「タバコ吸ってみねえ？」みたいな感じ。その時は2人ですね。ヘルスでした。もう口だけで、サービスを受けただけでした。もう緊張しすぎて覚えてないです。童貞ではなかったです。

単純に、エッチなことがしたいわけじゃない。

女の子に伝えるのは、…何か、あの、その、お客さんが求めてるもの。風俗に来るお客さんが結局何がしたいかって言ったら、雰囲気を楽しみたいっていうか。雰囲気。

女の子に指導する時には、毎回必ず言ってたことがあるんですけど。「（お客さんは）単純に、エッチなことがしたいわけじゃないんだよ」って。付き合いたての、もうイチャイチャした空間。（付き合って）1週間ぐらいの。なんかこう、わかりますか？　すっごい幸せな感じ。「あの感覚をお客さんは味わいたいんだよ」っていうことをすごく言ってたんですよ。

一番最初に（風俗に）ポって体験で来た時の子って、お客さんのイメージすっごい汚いんですよ。もう「アキバ系」みたいな。モテなくて、どうしようもない、汗臭いおっさんが来るみたいなイメージ。でも実際は、そんなことはないんですよ（笑）。

っていうか、そんなのは（お店に）入れないし、みたいな。基本的には僕は入れなかったですね。あんま汚い身なりとかしてたら、まあ、女の子もヤじゃないですか。

まあ、その、イチャイチャした空間を、こういうふうな感じっていうのを、自分がまずお客さんとして受けるわけじゃないですか。いい子がついたとしたらね。で、自分の体験談としてそれを（自分の店の女の子に）伝えたり。「こうしたらお客さん喜ぶよ」って。

とにかく起業したかったんで。

僕はもうとにかく起業したかったんで。それに対してやっぱりお金が必要だなっていう。そこがスタートですね。

その前に派遣で携帯の修理やってたんですけど。そこで仲良くしてた人が、夜のホストやってる人。その人の紹介で。昔ホストで、月二百万くらい稼いでた人だったりとか。今Kで飲食店やってるけど、もともとキャバクラで、こう、のし上がっていった人とか。そういう人たちが結構いたんですよ。で、夜の仕事はすごい稼げるってイメージ。短期昇進できるし。

28までに絶対起業したいって思ってたんで。で、それを狙うんだったら一番近道取った方がいい。だったらどんなことしてでも、やっぱお金貯めたいと思ったんで。で、特に学歴があるわけでもないから、一流企業はちょっと難しいだろうなとか色々考えたら、夜の仕事が一番近いなって思って。それで、入ってったんですよね。

「あ、この子は使えるな」って子だったら採る。

（採用の際に女性を）落とすことはあります。当然ビジュアルが、良くない子であったりとか、まあスパーンと言っちゃったら「商品になりえない」子。まず見た目もそうですし、性格的なこともそうですし。明らかに気遣いができない子。あとはまあ、この子病気持ってるなとか。明らかにおかしいだろう、みたいな。

（採用基準は）やってくうちにつかんでく感覚なんで「あ、この子は使えるな」って子だったら採りますし。半数よりはもっと採りますね。基本10割採りたいですよね、もちろん。

人足りないわけじゃないですけど、やっぱり…残酷な言い方したら、「消耗品」なんで。もう入れて取っ替えて入れて取っ替えてをずうっと繰り返していかなきゃいけないので。（女性の勤続年数は）平均したら1年くらい。

（志望理由は）まあ単純に、「お金が欲しい」っていうのが一番多いですね。（お金が欲しい理由は）それは、聞きますよ。それは人によって色々違いますけど、単純に「遊ぶ金が欲しい」って子もいますし。「親が病気で」って子もいますし。「家を出たい」とか、「自分で居酒屋とか何か、カフェをやりたいからお金を貯めたい」とかもありますし。

風俗は選択肢の中の一つ。

（女性が風俗で働くことも）いろんな選択肢の中の一つだと思います。自分の彼女や女房が風俗で働いていても、それは否定はしたくないです。子どもが風俗を仕事にしたいと言っても否定はしないですね。

会社としては、もちろん人として、一緒にお店を盛り上げていくみたいな感じ。そりゃ、ずっと働いてて欲しいですけど（笑）。女性を下に見ることはないですね。店舗をつくる仲間。

働いてなければ、自分の彼女とか、女房だったりとか、子どもが「（風俗で）働いている」って言った時に、多分大反対したと思うんですよ。当然女の子からそういう話もたくさん聞きますし。そういう時に女の子が一番悲しむのって、すごく否定されることなんですよね。どっかでやっぱり割り切って、何か目標を持って決心かけて、その行為をしてるってので。否定されてガーッて言われることに対して、こうガクッてくるみたいな。そういうのをたくさん見てきてるんで、それをまあちゃんと、ねえ、受け入れてあげようかなあって思いますし。

ひどい子は学校全部にバレちゃって、辞めなきゃいけなくなった。

基本的にはみなさん隠してますよね。9割は隠してる。1割は言ってるって感じ。周りに知られてそれで辞める子ももちろん。バレたら、辞めますね。辛いですね。ひどい子はもう学校全部にバレちゃって、学校辞めなきゃいけなくなったとかありますし。

男はいないですね。奥さんとかだって知ってましたし。途中で結婚する人もいますし。それを女の子が「私風俗で働いてるんだよねー」って言っちゃうと、何かものすごい目で見られるみたいな。たとえば職場とかだったら、「あ、この女簡単にやらせてくれる」と思われるとか。「腹切る度合いが違う」っていうか。

単純に性欲を満たしたいからレイプしたい人は多分いない。

店で働いてた子で、「昔レイプされた」って子もいたんですよ。ちょっと派手めな子もいましたけど、ま、1人とかじゃなかったんで。一番最初は当然びっくりしますよね。「そんな身近なものなの？」っていうのはあったし。

あ、別にそこ（辛い性体験）とそこ（風俗を仕事にすること）、多分直結してないと思いますよ。「そういうことがあったから私なんて別に」っていう子も、いたと言えばいたんですけど。

レイプする人って、単純に発散したいだけじゃないような気がします。来るお客さんを、多分、何万人も見てますけど。でも、単純に（性欲を）満たしたいからレイプしたい人は多分いないんじゃないかな、って感覚。

インタビュー④

風俗以外の道でも需要と供給がマッチするような社会があれば、それはそれで嬉しい。

33歳　男性
2010.7.1 取材

面白そうだから行ってみた。

風俗に行くようになったのは、19ぐらいかな。店舗型のファッションヘルスっていうのかな？　コスプレをしてもらって、そこは本番までは含まない。

単純な興味だね。ホント、男性として、女の人とやらしいことしたいってのは。コスプレをするとか、そういうことするっていうこともなかったから、「面白そうだな」って。1人で。

別にムラムラしたから行くとか、そういうことじゃなかったと思うな。たまたまかな。うん。でも、心の中でね、社会的な欲求がたまったとか、そういうことじゃないかな。

仕事でそういうことをする人は飛ばされる。

友だちに誘われても（風俗に）行こうと思わないね。俺は男社会にいるし、体育会系の生活っていうのをしたことがあるので。誘われたこともある。でも結局なかったね。行かなかった。

だって「そういう（誘われて行く）もんじゃない」って僕は思ってるから。おなかが減った時に、自分がおなか減ったタイミングで食べるじゃない。おなかが減ってもないのに、「おいしいカニ食いに行こう」ってのもヤじゃない。あと、やっぱね、人としてのアクションをするわけじゃない。性的なことを含みね。それをその、気軽に行くっていうのは、ちょっと僕には信じられなかったのね。

（断っても）仕事上の支障もなかったね。その程度の付き合いだったら、ハナから大した付き合いじゃないよ。映画で役が欲しくで抱かれるのは普通（にある）。TVではあまりない。代理店とかだと、ある。モデル志望の女の子が代理店に抱かれてTVに出るということもあるし、モデル会社が女の子たちをTV会社にエキストラみたいので連れてくのよ。で、P（プロデューサー）とかD（ディレクター）とかに見せて。番組に出演するじゃない。で、その後に、「お持ち帰り」じゃないけど、ま、暗黙の了解であったりはする。

実際そういう人もいた。でもそういうことする人は、大抵飛ばされる。バレる。それはバレるよ。

「人手が足んないからやってくれ」と言われて。

21、22くらいの頃、風俗で働いていたんですよ。受付です。あと、店のこと色々やったりとか。当時、知り合いだった友だちがいて。だいぶ上だな…今の僕と同じくらいの方がいて。その人が「お店をオープンする」と。「人手が足んないからやってくれ」って。

働いたのは4ヶ月くらい。「その筋の人たち」が、やっぱり絡んでくるのよ。その人、当時の友だちは、その筋の人じゃない。完全なビジネスマンだったんだけど、場所もNだったし、仕事する上では、やっぱりつるまなきゃいけない関係だったらしいのね。

最初は僕と彼だけでやってたんだけど、ある日、そういうお兄ちゃんがやって来て、僕と一緒に仕事することになって。で、2日後ぐらいに、似てるお兄ちゃんがまた来て。なんかだんだんだん、雇用が増えてきたのよ。そんな感じで、僕以外のお兄ちゃんたちはみんな、何て言うか、チンピラみたいな感じかな。

僕が一緒に働いてた人は、若い構成員っていうのかな。あと、田舎から出てきて一旗揚げようと思ってるけど、何していいかわからないとか、そういう子たちが集まってきてたの。だからチンピラとはちょっと違うかな。

兄ちゃんたちの扱いは「なかなかためになるなあ」と思った。

同い年のお兄ちゃんたちは、あの人たちはあの人たちで、別の人生を歩んでで。この店は女を扱ってて、女は商品で、それを回していくことは、よくよくわかってる人たち。で、そういうことでずっと食ってけるとどっかでわかってると思うんだよね。そういう人たちなんで。ああいう連中の扱いとか見てると、「なかなかためになるなあ」と思ったことはあったかな。

僕は女の人たちを、「1人の女性」としてケアして、とは思ってたんだけど。兄ちゃんたちは、「商品」として扱ってるので、スケジュール管理とかもシンプルにいくのよ。3日働いたから次の3日は休ませるとか。商品として、サイクルとして考えてるので、考え方がすごく速いんだよね。もう番号制みたいな感じ。「この子は気難しいから、ちょっと1回ケアをして優しくしよう」とか、そういうことはまったく考えない。非常に合理的だった。

多少男性のものいじってあげるだけでお金がもらえるんであれば、楽じゃない。

（女性が働くきっかけは）お金が欲しいから。深刻な理由もあるし、短絡的な子もいたかな。「お金が欲しい、楽して暮らしたい、だから風俗」と。多少男性のものいじってあげるだけでお金がもらえるんであれば、楽じゃない。で、そういう人もいた。

僕がいた時に辞めた女の子は、そんないなかったんだけど、精神的や肉体的にダメになったとか、そういう人は幸いいなかったかな。

女の子に対しては、そういうところで働くってことに対しては、別に、僕は何とも思ってないかな。「哀れな女」とかさ、「体を使ってる」、「さもしい」とか「やらしい」とか、そういうふうに思ったことは一度もない。

自分の彼女が風俗で働いてたら、まず検査をしてもらうかな。体的なね。だけど、僕が惚れた相手で、かつ彼女が僕に惚れてる以上、「性産業にいた」とか「今いる」とかは、まったく関係ない。体をすり減らしてるって面があるので、そこだけはケアするようにっていうのは、ちゃんと伝えるかな。

需要と供給のビジネスの中で。

なぜ風俗があるかって言ったら、まあ、需要と供給がマッチしてるからじゃない。仕事の一つだとは思う。

「性暴力」って言っても色々あるじゃない。風俗があるおかげで、いわゆるレイプっていうの？　あれに対しては、ほんのちょっとだけだけど、もしかしたら（減らす）効果はあるんじゃないかと思う。だけどデートレイプとか、恋人に対してひどいことをするっていうのに対して（減らす効果があるか）は、まったくわからない。

風俗を性暴力とは思わないかな。一応社会のシステムとしてまわっているから。「チャイルド・トラフィック」とか、人身売買。あれとかは、もう性暴力だと思うんだよね。リアル性暴力。子ども関係の性は、僕はあり得ないと思う。ない。向こうはキモチイものは多少はあるかもしれないけど、同意はしてないわけでしょ。何だかわかんないうちにされてることじゃない。子ども、あと障がい者に対するものは、明らかな暴力、性暴力だとは思うかな。

暴力ってのは一方的に課せられることじゃない。でも（風俗で働いている）彼女たちは、その…うーん、でも一応需要と供給のビジネスの中でいってるわけじゃない。自分の持ってるスキルなり体を提供して、その対価を得られると。でも、そういう（性暴力だという）見方があるのもわかるけどね。

あと、これはホントに言い方が悪いんだけど、お店にとって女の子は商品じゃない。それを傷つけられるのはよろしくない。なので性暴力を容認されるとお店としても困っちゃう。

社会的にはいいことかなあ。奨励はしないけど。

これもけっこうストロングな意見かもしれないけど、需要と供給がマッチしてるわけじゃない、一応は。で、一応は同意の上に成り立ってるじゃない。女性はお金がなくて困ってると。で、結果として体を売って、その対価として少なくないお金をちゃんと提供されるでしょ。そのお金で彼女たちの生活が何とかなる、まわるんであれば、それはそれで社会的にはいいことかなあと思うよね。奨励はしないけどさ。

奨励しないのは辛いから。僕もそれは辛いし、肉体的にも精神的にも大変じゃない。でも、他の道でも需要と供給がマッチするような社会があれば、それはそれで嬉しい。もしその女性が風俗以外の道に進んで、需要と供給がマッチできてお金が得られるのであれば、それはそれでOK。で、女性が、体を売るってことに対して、プロ意識持ってたりとか、「そっちのほうが自分が楽だから」とか「自分に合ってる」とか、そういう意味でやるのであれば、それはそれでOK。そういうこと。

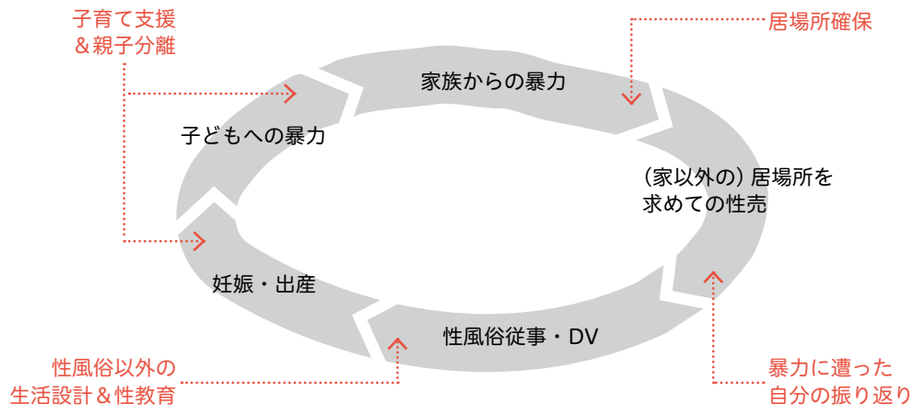
少女たちのその後を支える活動

性暴力に遭うと、暴力のサイクルから抜け出すのが難しいことがあります。背景は人によってさまざまですが、今後の人生で再び暴力に遭わないためのケア、子どもを虐待しないための支援が必要とされています。

しあわせなみだでは、平成25年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業「子ども・女性を対象とした虐待連鎖防止事業」を通して、性暴力の連鎖を断ち切る活動に取り組んできました。ここでは、関わった人々の声を交えて、それぞれの事業についてご紹介します。

平成 25 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業
「子ども・女性を対象とした虐待連鎖防止事業」概要

目的 暴力のサイクルから抜け出すことが難しい現状に対して、暴力のサイクルの「入口」と「循環」双方からアプローチすることで、虐待連鎖を防止する。



❶ 家に帰れない子どもたちを対象とした宿泊所提供と福祉サービスへのつなぎ

家族からの虐待で自宅に戻れない子どもたちが、泊まれる場を確保するために性売（売春）をせざるをえないことで、さらなる暴力のサイクルへとはまっていく。そんな悪循環を断ち切るために、当面の居場所を確保し、適切な公的サービスにつなぐ活動を行ないました。

連携団体：特定非営利活動法人BONDプロジェクト

❷ 施設で暮らす子ども・女性を対象とした暴力経験の振り返り＆退所後の自立生活応援

施設で暮らす子どもや女性たちに、全国社会福祉協議会が作成した暴力被害者のための支援ツール「あなたの歩み」のワークショップと、自活スキルを身につける講座を提供しました。過去を振り返り、自立して暮らしていかれるスキルを身につけることで、心のケアを行なうとともに、再び暴力に遭わない力を、一人ひとりが持てるようにしました。

実施施設：千葉県・東京都・神奈川県の児童養護施設・母子生活支援施設・婦人保護施設・更正施設・ステップハウス計11か所

▼暴力経験を振り返るワークショップ
13講座を開催　連携団体：メンタルケアサロンピュアラル

▼〝ココロにきく〟メーク講座
23講座開催　連携団体：メンタルケアメーク21

▼〝ココロも満たされる〟料理講座
12講座開催　連携団体：子どもを守る目コミュ@文京区

▼〝ココロも元気になる〟護身術
15講座開催　連携団体：リアライズYOKOHAMA

❸ 施設職員に対するスーパービジョン

施設で働く職員たちへの支援も、暴力のサイクルから子ども・女性を引き離すための大切な活動です。暴力に遭った当事者たちが回復するための技術を伝えることはもちろん、援助目標の統一や、職員のモチベーションが向上する環境づくりのサポートも行なっています。

11講座開催　連携団体：メンタルケアサロンピュアラル

1 〝ココロにきく〟メーク講座

施設の女性たちに必要なのは自分を慈しむ気持ち。

「逃げることばかり考えていたから、メークすることもオシャレをすることも忘れていた」。翌月出産を控えていた19歳の少女がポツリと言った言葉です。19歳と言えば、おしゃれが楽しい年頃のはずなのに、自嘲気味に話す彼女からは若さは感じられませんでした。久しぶりにメークをして、どれだけ美容への関心が低くなっていたか気づいたようです。しかしこの少女に限らず、施設で暮らす多くの女性たちが同じような思いを抱えている現状を目の当たりにした時、美容という多くの女性が楽しむ社会的行為を自分も同じようにしているのだと気づいてもらうことを、このメーク講座では大切にしようと考えました。困難な状況にあっても綺麗になることを楽しんでいる自分がいる、と気づいてもらうことが重要だと思ったのです。ですから、本事業のメーク講座ではスキンシップとスキンケアの大切さを訴え続けました。メークは、口紅を塗れば明るく見える等、見た目を瞬時に変える即効性があります。しかし、じっくり自分の肌にふれながら行うスキンケアは、自分を慈しむ大切さを教えてくれる心の改善法として有効であり、肌と肌のふれあいは心を通わせるためには不可欠な行為だからです。

『心も肌も乾いていたことに気づいた』と参加者の一人が言ったように、施設の女性たちに必要なのは自分を慈しむ気持ち。自分自身を大切に思う気持ちが育まれることで自信が生まれ、やがてその自信は暴力を寄せつけないオーラを放つと私は考えています。

「〝ココロにきく〟メーク講座」は、美や若さだけを追った美容講座ではないのでメークのスキルを求めた人には物足りなかったかもしれません。しかし参加した多くの女性たちには本事業の趣旨が伝わったからこそ、講座中は他人を受け入れ、褒め合い、楽しさを共有できたのではないでしょうか。

『自分の肌を大事にしていくことで子育てや仕事・人間関係などに明るい影響が増した』という参加者の感想は、施設の女性たちにとってココロに効いた意味ある事業であったことを示唆しているように思えます。

施設退所後も、女性たちが美容ケアを通して「自分を慈しむ」気持ちを持ち続けてくれることを、心から願っています。

（メンタルケアメーク21　田島みゆき）

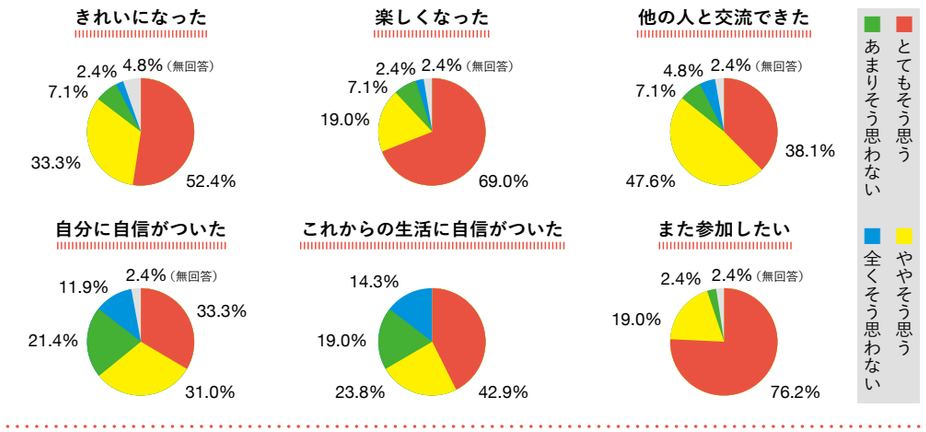
講座アンケートより

■アンケート対象：施設入居者
■回答数：42

「転職先の面接にて、笑顔を褒められ合格した。」

講座では、効果として、「メーク技術を学べた」「メークでキレイになった」のはもちろん、自分への自信を回復することによる、「内面」や「対人関係」の変化を挙げる方が、非常に多い結果となりました。暴力の連鎖から抜け出し、再び暴力に遭うことのない人生を歩むことのできる力が、養われています。

効果　64.3％が「自分に自信がついた」、66.7％が「これからの生活に自信がついた」、95.2％が「また参加したい」



【見た目を整える習慣】
・前よりも〝キレイ〟になった！
・メークをしただけで肌がきれいに見えた。
・メーク（セラピー）に出てからメークをするようになりました。またメーク（セラピー）に参加したいです。

【心への作用】
・お化粧をすることが好きだったのですが、最近は自信がなくなり鏡すら見たくない時期もありました。
　これから出かけることがあれば、化粧したいと思います。
・忙しい生活の中、化粧水をつけるほんのわずかな時間でも、リラックスでき自分を労うようになった。
・心も肌もかわいていた事に気付いた。

【対人関係の改善】
・自分の肌、見せ方を大事にしていくことを教えていただいて、子育てや仕事、人間関係などに明るい影響が増しました。本当に感謝しております。ありがとうございました！

【友だちに講座を一言で説明するとしたら】
・みんなお姫様に変身できるヨ！！
・とっても楽しいよ！　おけしょうをすると気持ちもかえられるよ。
・メーク（セラピー）は心が落ち着くからいいよと言います。

2 〝ココロも満たされる〟料理講座

おいしく作れたという経験は、自信や自己肯定感にもつながる。

私たちの「子どもを守る目コミュ@文京区」は、児童養護施設や母子生活支援施設にて、料理教室を実施しました。

私たちが、それらの施設で料理教室をはじめた理由は、ふたつあります。ひとつは、自立支援のため。食はいのちの基本であり、料理は自立するための重要なツールのひとつであるからです。

児童養護施設の子どもたちは、スーパーで買い物をしたり、米を研いだりするなどの家事を教わる機会がほとんどありません。なかには「切り身魚が海を泳いでいる」と思っている子がいるというのに、高校を卒業すると同時に施設を出て一人暮らしをし、自立することが要求されます。そんな子どもたちが少しでも経済的、健康的に日々の食生活を送ることができるよう、家庭料理の基本とコツをお伝えしたいと思ったのです。

もうひとつは、「あなたを応援している」というメッセージを発信したかったから。

児童養護施設や母子生活支援施設には、心に傷を負っていたり、多大なストレスを抱えている方がたくさんいらっしゃいます。でも、いっしょに料理をして、温かいものを食べるだけで、いっときだけでもこころとからだは満たされます。料理は、親から子どもへ伝えていかなければならない愛情のひとつであり、そこに言葉など必要ないのです。

何より、自分で料理をしておいしく作れたという経験は、自信や自己肯定感にもつながります。忘れていた「自分を大切にする」という感情も思い出させてくれるでしょう。また、お子さんがいらっしゃる方にとっては、料理を通して親子の絆も深まります。

料理教室を実施していちばんよかったことは、最初は消極的だった参加者の方も、最後には笑顔で「おいしい」「これなら自分でもできそう」と言ってくれたこと。料理教室を楽しみにしてくれていたこと。

私は、「虐待が連鎖する」とは思いませんが、まずは「自分のこころとからだが満たされること」が、虐待防止には必要不可欠ではないかと思っています。そして、料理は何にも代えがたい、こころとからだへのおクスリになりうると思うのです。

（子どもを守る目コミュ@文京区　工藤玲子）

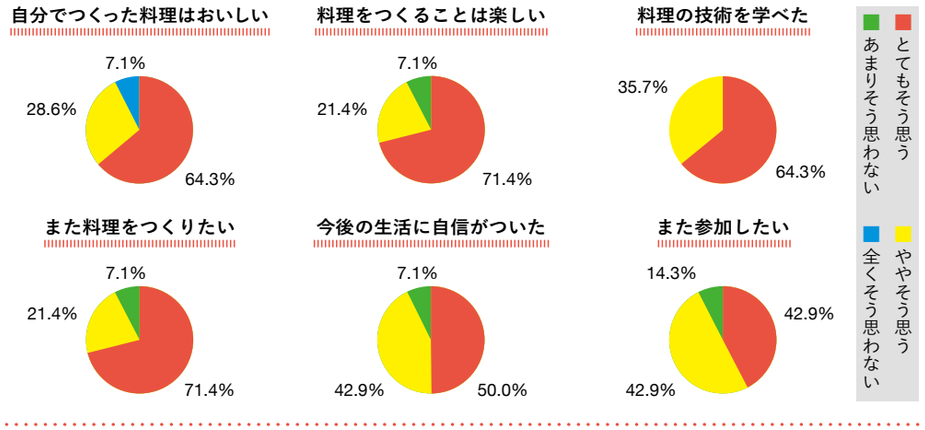
講座アンケートより

■アンケート対象：施設入居者
■回答数：14

「忙しいとどうしても料理がマンネリになるので、新しくて簡単な料理はとても助かりました。」

施設で暮らす方は、「マナーがなっていないと叩かれる」「何を作ってもまずいと言われる」等、食の場が暴力、虐待の場であった方が少なくありません。講座では、「苦手だった食材が食べられるようになる」「いつも１人で食べている方が、皆と笑顔で会話を交わしながら食べる」といった効果もありました。「皆で作って食べるとおいしい経験」の積み重ねが必要です。

効果　100％が「料理の技術を学べた」、92.9％が「料理を作ることは楽しい」「また料理をつくりたい」「今後の生活に自信がついた」



【新しいことを学べた】
・作ったことがない味つけを学んで新鮮でした。またいろいろな料理を作ってみたいと思いました。
・自分の知らない小技があったりするのはおどろきがあって楽しい。
・豚バラや豆腐など、安価な食材を使った献立は、利用者の皆さんにとっても
　日々の食事作りに役立つものとなったのではないかと思います。（職員より）

【コミュニケーションの円滑化】
・利用者さん同士の交流は行事を通じてでないと難しいのが現状です。
　料理を通じて普段はコミュニケーションの苦手な利用者さんも自然に会話がもてていたと思います。（職員より）
・外部の方々と調理をする機会がないので、新鮮な気持ちになった。（職員より）

【友だちに講座を一言で説明するとしたら】
・みんなでワイワイお料理会
・丁寧に教えてもらってみんなで一緒に作ったこと、よかったと思います。
・わかりやすく、とても親切に教えてくれて、今後役立つと思う。
・「仕事疲れがあっても手軽料理ができるよ～」と
・ちいさい子も食べられる、忙しいママの時短料理・・・とか・・・
・家事の自立支援のために役立つ講座（職員より）
・個人のレベルに合わせて楽しく料理を教えてくれる講座（職員より）

3 〝ココロも元気になる〟護身術

対処法を知ることで、自分の足で踏み出す勇気を持てる。

『護身術』は身を護る手段であると同時に、身を守った自分の心を護ることができて初めて成立するものです。私はWEN-DOは『心と体の力に気づく女性のための護身術』と捉えています。

今回の更生施設・児童養護施設で女性のための護身術の開催機会を頂き、たくさんの女性にWEN-DOの体験をしていただきました。

講座で私が大切にしていることは、「起きた暴力については、被害者には責任はない。加害者の問題である」という視点に立って進めていくことです。いまだに、社会の中では、被害者の落ち度を責める傾向があります。そんな中で、傷つきながらも、生きることを選んできた彼女たちに「事実」を伝え、過剰な責任を手放す勇気を持って欲しいと思っています。加害者の多くは、彼女たちが生活していく中で深い関わりを持っている人たちです。「大けがをさせたくない、その後の人間関係を壊したくない。」など、彼女たちの優しい心を利用し、体力の差で服従させ、社会的力を振りかざすことで彼女たちに責任を押し付けてきました。

WEN-DOでは、男女の筋肉量の違いによる力の差については、体の重心の違いや、体のちょっとした使い方で補っていきます。さまざまな技の練習の中で「こんな方法があったんだ！」という体験を積み重ねていきます。この具体的な経験は、これから生きていく未来への大きな自信になります。過去は変えることができませんが、未来は自分で創ることができます。対処法を知ることで、自分の足で踏み出す勇気を持てるのです。

もう一つ、人間関係の距離で混乱する女性たちがとても多いです。これについては視覚を使った『サークルズプログラム』から学んでいきます。誰とどれ位、近づいておしゃべりして良いのか？　または離れて良いのか？　マナーとしての距離感を考えていきます。

施設によっては複数回の講座実施があり、すべてに参加してくださった方もいらっしゃいました。来るたびに表情が明るくなり、自信をもって動いている姿が印象的でした。また、講座終了後に、自分の問題について相談に来た方もいらっしゃいます。WEN-DOを自分のこととしてとらえ、自分の問題とつながったのだと思います。この方は職員の方にも相談することになり、解決に向かっていきました。直接お話しをしなかった参加者の方たちも、講座の初めと終わりでは表情が全く変わってきます。声が出ないと言っていた人たちが呼吸とともに大きな声を出せるようになっていきます。

どうか困難な環境にいる子ども・女性が自分の持っている「心と体の力」に気づき、実りある人生を送れますように。

（リアライズ YOKOHAMA　橋本明子）

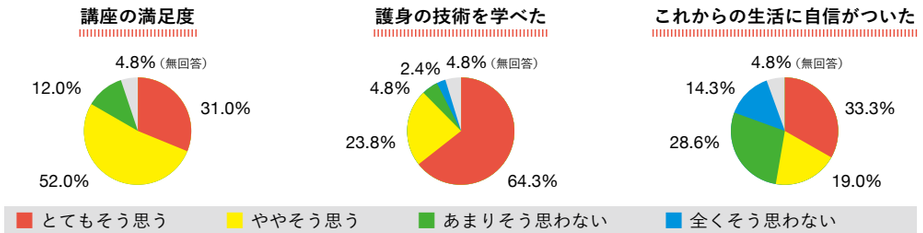
講座アンケートより

■アンケート対象：施設入居者
■回答数：42

「嫌な時は嫌と言えるようになり、距離を置くことも怖くなくなり、逆に大事なことなんだな、と思える変化があった。」

暴力がきっかけで施設に入居する方は、少なくありません。暴力は加害者にすべての責任がありますが、暴力に遭った側は、「自分を守れなかった」無力感や「自分が悪いから暴力に遭った」自責の念を持ち、自分を大切に思えなくなります。講座を通じて、「自分のことは自分を守っていい」という気づきを得ることが、暴力のサイクルから抜け出す第一歩です。

効果　83.0%が「講座に満足」、88.1%が「護身の技術を学べた」、52.3%が「これからの生活に自信がついた」



【自分を守るために役に立つ】

- 護身術に特別な印象を持っていたが、職場でのセクハラに対しての対処方法や、人との距離の取り方等、身近に役立ち、使用できることは、とても大切なことだと感じました。
- 電車でイヤな男性にあって他の車両に移ろうと思えたので、落ち着けました。
- 電車によく乗るので、覚えて正解だなーと思いました。
- キケンな時に大声を出すということがわかって良かった。
- チカンにあったら即使えると思う。
- 将来、もし何かあったときに、すぐにできそうなものがたくさんあった。
- 護身術というから合気道のようなものかと思ったが、相手を驚かせて、その間に逃げる、または相手のソフトな急所を攻撃する→逃げる・・・というのは本当に斬新だった。下手に抵抗するより一番現実味のある護身術だと思う。今後はまずとっさに大声が出る練習をしたい。（職員より）

【他人との関係を考えた】

- 近づきすぎないことの注意に驚き、参考になりました。
- 知っている人と距離を取るのが上手になった。
- 対人コミュニケーションの図解は解りやすく、DVサイクルなども客観的に見ることができたことでしょう。（職員より）

【元気になれる】

- 自分自身に元気と強くなるぞ！という勇気をくれた気がする。ありがとう。
- 護身術講座に出てから自信がつきました。
- 発声することで、良いリラクゼーションを覚えたと思う。
- 自分にできることがある、という知識と技術を身に付け、前向きな発言が聞かれた。（職員より）
- 職員、利用者とも、終了後は安心した感想をもった人が多かったです。（職員より）

4 暴力経験を振り返るワークショップ

「信頼関係を築くためのツール」としてあなたの歩みを。

今回の講座で使用した「あなたの歩み」は、このワークブックに沿って振り返りをすることで支援者と施設入居者が信頼関係を築くことを目的としていることが大きな特徴です。

過去の暴力体験を振り返る、というと「心の専門家でないと難しい」と思われがちですが、そうではないところが良いポイントだと考えています。

講座開催時に一番大切にしたことは、「このワークを職員の方が入居者へおこなうイメージを持ってもらうこと」でした。施設によっては、職員も入居者も大人であるため、それぞれの事情に深く入り過ぎないようにしている傾向がみられ、心の問題には踏み入れないスタンスを取っている職員の方もいらっしゃることが明らかになりました。そういう方でも「信頼関係を築くためのツール」としてあなたの歩みを使っていただけるよう、イメージをしてもらいやすいように、想定される相手の反応や態度などの話を交えて進めるように心がけました。

その他には次の点に気をつけました。

・職員の方へ、自分自身の心のケアを大切にすることを促す

・ワークを進める中で、話したいことだけ話し、話したくないことは話さなくて良いというルールを設ける

・大人数での開催は、2人ではなく3人グループにして1対1でお互いの事情に深入りすることを避ける

参加した職員の方から「自分の現在、過去に触れることは辛かったが、未来のことまで考えた時にすっきりとしました」というご感想をいただいたことがとても印象に残っています。

（メンタルケアサロン ピュアラル　今井さいこ）

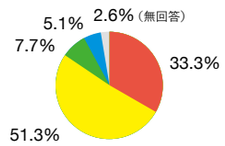
講座アンケートより

■アンケート対象：施設職員
■回答数：39

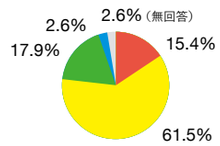
「関係作りの手掛かりとして有効であると感じます。」

全国社会福祉協議会が開発した暴力被害者支援ツール「あなたの歩み」を活用したワークショップでは、入居者が暴力経験を振り返るだけでなく、職員自身がこれまでの人生を振り返ることにより、それが対人援助技術にどのような影響を与えているかに気付く効果も、もたらしました。

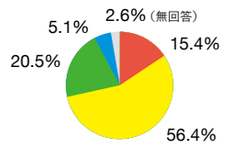
暴力経験を振り返ることができる



退所後の自立を後押しできる



職員との信頼関係を構築できる



■とてもそう思う
■ややそう思う
■あまりそう思わない
■全くそう思わない

5 施設職員に対するスーパービジョン

やってきたことは間違いではないんだ、と自信を持てる。

今回のスーパービジョンで取り入れた「ピア（グループ）スーパービジョン」は、参加者が（発表者以外）全員スーパーバイザーになるという特徴を持っています。そのため、次の3点を実現できます。

・発表者が勇気づけられ、日頃の自分の職務に対して自己肯定感を持つことができるようになる

・相手のために意見を出し合えるチームワークづくりができる

・講座以降は外部講師を呼ばなくてもたった30分でスーパービジョンをおこなうことができる

今回のスーパービジョンで大切にしたことは、次の3点です。

・流れを把握してもらう

・役割（ファシリテーター、発表者、タイムキーパー、スーパーバイザー）を体験してもらう

・時間内に終わらせる

発表をした職員の方から「いつもこれでいいのかと不安な中、業務にあたっていたが、みんなから『○○が良かった』『△△も良かった』とたくさんの褒めコメントをもらい、やってきたことは間違いではないんだ、と自信を持つことができた」という感想をいただけたのがとても印象に残っています。また、終わった後に良い空気感の中で「この件については、さっき意見が上がった□□をさっそくやってみたい」と職員同士で打合せをしている姿も見られました。

大きな負担を伴わず、職員同士でできるこのスーパービジョンは、日頃の業務で仲間のサポートを必要としている職員の方には必要なものだと感じました。

（メンタルケアサロン ピュアラル　今井さいこ）

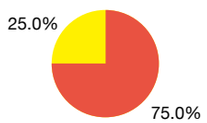
講座アンケートより

■アンケート対象：施設職員
■回答数：20

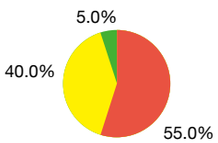
「自分の思考パターンや視点にとらわれずに、発想の転換ができ支援の幅が広がる。」

スーパービジョン実施により、多くの職員が、「これまでの対人援助技術を見直すきっかけになった」と感じています。また、「肯定し、アドバイスする」過程を通じて、職場のチーム力が高まる効果も見出されます。継続した実施により、暴力連鎖を防止する働きかけにつながることが、期待されます。

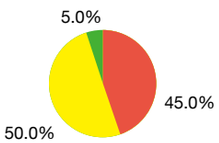
援助技術を高めることができる



自己肯定感を高めることができる

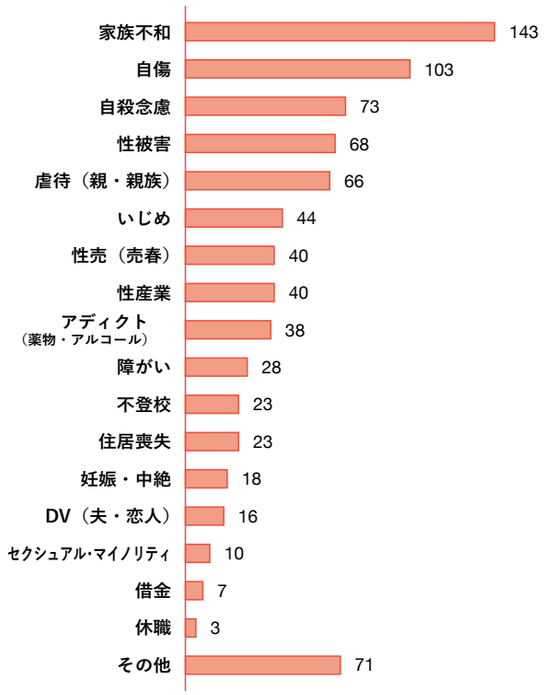


自分たちでも実施したいと思う



■とてもそう思う
■ややそう思う
■あまりそう思わない
■全くそう思わない

状況（複数回答）



宿泊所を提供した子どもたちは、1 人平均 3.9 個の課題を抱えていました。
4 人に 3 人は、家族不和の中で生きてきました。35% は家族からの虐待に遭っています。
55% は自傷を経験、約 4 割は今も自殺念慮を抱いています。
36.4% は性被害に遭い、2 割の子どもたちに、性売（売春）や性産業の経験があります。1 割は妊娠・中絶をしています。
ある課題を抱えたために、さらなる課題に巻き込まれ、暴力の連鎖に陥り、生きることが辛い状況に置かれていることが分かります。

その他（抜粋）

【家族】親の過干渉／両親の DV ／母の彼との関係／親に生活費を渡している／親にお金を貸してと言われる／親を事故で失ったトラウマ
【対人】人と関わるのが怖い／対人関係が築けない／ネットトラブル
【恋愛】男性依存／お金をもらわない分一緒にいてもらう／元恋人からのストーカー
【学校】アカハラ（アカデミック・ハラスメント）／体調不良で休学中
【職場】セクハラ／パワハラ／職場での人間関係／仕事をやめたいがやめられない／就職への不安
【過去の経験】フラッシュバック／性暴力のトラウマ
【病気】情緒不安定／摂食障害／難病

宿泊所提供後の関わり（抜粋）②

23 歳　家族からの虐待、中絶経験、自殺念慮もあったため、一時保護につないだ。
24 歳　家族からの虐待に遭い、薬物依存、自傷もあったため、民間支援団体につないだ。
24 歳　家族からの虐待で家に帰れず、性売や性産業で生活、中絶経験や薬物依存もあり、一時保護につないだ。
24 歳　所持金がなく、性売や性産業で生計を立てていたので、一時保護につないだ。
24 歳　家族からの虐待、パートナーからの暴力に遭い、性産業で生活、衣服等を持っていなかったので、支援した。
26 歳　セクシュアル・マイノリティで、いじめ、パートナーからの暴力、性産業を経験、自傷もあったため、一時保護につないだ。

少女たちのその後を支える活動

6　家に帰れない子どもたちを対象とした宿泊所提供と福祉サービスへのつなぎ

8 ヶ月で 187 名に宿泊所を提供。
うち 10 代が 40.1%。36.4% は性被害を経験。

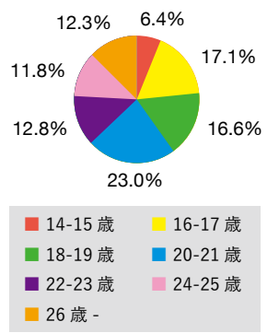
性被害、親や親族からの虐待、いじめ等を経験した子どもたちは、自殺念慮を抱き、自傷、性売（売春）、アディクト（薬物やアルコールへの依存）等、生きることが辛い状況に置かれています。福祉サービスにつながることが難しい場合も多く、継続的な関わりが必要です。

宿泊日数

1 泊	187 名
2 泊	23 名
3 泊	0 名
4 泊	2 名
計	187 名
	のべ 216 泊

8 ヶ月（245 日間）で 187 名に、のべ 216 泊の宿泊を提供しました。10 日で 8.8 人が宿泊していることになります。恒常的なサービス提供が必要です。

年齢



最も多いのは 20-21 歳で、全体の 4 分の 1 を占めています。全体の 4 割は 10 代で、15 歳以下も 6.4% います。18-19 歳は未成年ですが、児童福祉法の対象から外れ、法制度の支援から漏れている世代です。

宿泊所提供後の関わり（抜粋）①

14 歳　いじめで不登校、自傷と自殺念慮があったため、弁護士につないだ。
15 歳　家族からの虐待やいじめを経験、性売、アディクション、自殺念慮もあり、同行、付き添い。
17 歳　家族からの虐待、性被害の経験もあり、自傷や性売もしていたため、民間支援団体につないだ。
18 歳　地方から来て、住む場所がなく、性産業に従事していたため、一時保護につないだ。
19 歳　性産業で妊娠、病院に同行し、中絶手術をした。
20 歳　自宅まで帰るお金を持っていなかったため、支援した。
20 歳　家族からの虐待で家に帰れず、性売で生活、中絶経験や自殺念慮もあり、一時保護につないだ。
20 歳　難病、家族からの虐待、性産業や性売、中絶も経験、借金があったため、弁護士につないだ。
20 歳　難病があり、借金、アディクションもあったため、婦人相談員につないだ。
20 歳　お金がなく、食べていなかったので、食料を支援した。
20 歳　住居がなく、性売や性産業で生活、自殺念慮もあったため、自治体につないだ。
21 歳　家族からの虐待に遭っており、福祉事務所につないだ。
23 歳　性被害に遭い、性感染症の心配があったため、病院に同行し、検査を受けた。
23 歳　性産業、性売を経験し、妊娠の可能性があったため、検査を受けた。
23 歳　家族からの虐待に遭い、家に帰れないため、一時保護につないだ。

Life is Rights

子ども・女性を対象とした虐待連鎖防止事業 報告書

発行日	2014 年 3 月 3 日
発行・編集	特定非営利活動法人しあわせなみだ ウェブサイト：http://shiawasenamida.org/ メール：info@shiawasenamida.org
デザイン	沼上純也（イヰマ）
特別協力	特定非営利活動法人 BOND プロジェクト 橘ジュン、ken

©2014　特定非営利活動法人しあわせなみだ　All Rights Reserved.

Printed in Japan　本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。

Supported by Social Welfare Assistance Project (Welfare And Medical Service Agency)